

研究の概要

助成年度・種別	2014年度 若手研究助成
研究者	古村 健太郎
所属	筑波大学大学院
研究テーマ	マインドセット理論に基づく行動パターンの学習はDVの予防に効果的か？
研究の概要 (助成申請書の要約)	<p>親密な他者からの暴力(DV)は、比較的被害の小さい間接的暴力から被害の大きい直接的暴力へと発展していく。したがって、DVの予防には、親密な他者からの間接的暴力に対して、その再発を防ぐ行動をとることが重要となる。しかし、関係が親密になるほど、他者からの間接的暴力は見過ごされたり、ポジティブに認知されたりするようになり、それが習慣化・自動化されていく。そのため、間接的暴力の再発を予防する防ぐ行動を取りにくくなってしまふ。したがって、DVの予防には、この習慣化・自動化された間接的暴力への寛容な認知を修正する手立てが必要となる。</p> <p>本研究では、マインドセット理論に基づく行動パターンの学習がDVの予防に有効かを検討する。具体的には、①間接的暴力の再発予防に効果的な行動パターンを収集し、その有効性を検討する。その後、②収集された行動をif-then形式(例えば、if:もしも相手が間接的暴力を行使したら、then:嫌だと言う)で学習し、その学習が間接的暴力への寛容な認知の修正や間接的暴力の再発予防に効果的な行動の促進に有効かを検討する。</p>
選考委員からのコメント	<p>恋人や配偶者といった親密な他者からの暴力の問題は今日深刻な社会問題となっている。本研究においては、マインドセット理論に基づく行動パターンの学習をDV予防に応用しようとするものであり、研究成果に期待が持てる。</p>